

観光ビジネス学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	22	フィールドワーク概論
1年	44	海外研修

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-09				
	●	●								
科目名	フィールドワーク概論				単位認定者	田中 瑠莉		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、フィールドワークの学術史や学問的意義を含めその手法を学び、体系的にフィールドワークを理解することを目的としている。特に、観光地にてフィールドワークを行う際に必要とされる基本概念と分析枠組みに関して、人類学的な理解の土台に立ちつつ、多角的に観光地や観光現象を分析・考察するために必要な知識を身につける。また、本学科では在学中に様々な調査地でフィールドワークを実施する機会があるため、それらの機会を有意義なものにし、自主的にフィールドワークに取り組む姿勢を養う。									
到達目標	文化人類学的なフィールドワークに関する学問的知識や心得を理解し、多角的な視点から物事を考えられるようになる。ならびに聞き取りや観察、データ整理、分析、報告書やレポート執筆などの一連の質的研究手法に必要な知識を獲得し、調査計画を立てられるようになる。そして在学中に行われるフィールドワークなどにおいて、その知識を活用することができる。									
学修者への期待等	各回の授業内容を理解し、1回ごとの授業を有意義なものするように各自努めること。参考文献等に積極的に目を通し、予習復習を進めること。毎回、質問を考えながら講義を聞くこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス/本講義の扱うフィールドワーク									
2	フィールドワークとは何か―「他者」を描く・理解する					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
3	フィールドワークの成立背景と展開					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
4	フィールドワークの思考法―観光との違い					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
5	観光人類学の理論―先人は観光をどのように見てきたか					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
6	現場を描き出す―具体的対象と抽象的思考					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
7	フィールドワークの計画を立てる					前回の授業内容を復習し、どのようなフィールドワークをしてみたいか考えてみる（30分程度）。				
8	レポート・報告書の作成方法					授業内課題①次回授業までに、与えられたテーマで形式に沿ったレポートを作成する（2時間程度）。				
9	聞き取りの方法論					前回の授業内容を復習し、聞き取りではどのように質問したらよいか想像してみる（30分程度）。				
10	調査されることの迷惑―倫理と個人情報について					前回の授業内容を復習し、個人情報保護に関してあらかじめ調べておくこと（30分程度）。				
11	文化人類学のフィールドワークの事例紹介―先人の葛藤と工夫					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
12	観光研究とフィールドワーク①沖縄県の事例					前回の授業内容を復習し、沖縄県の観光資源についてあらかじめ調べておくこと（30分程度）。				
13	観光研究とフィールドワーク②対馬市の事例					前回の授業内容を復習し、対馬市の観光資源についてあらかじめ調べておくこと（30分程度）。				
14	現地調査の技法と問題解決					前回の授業内容を復習し、自身のフィールドワーク計画で想定されるトラブルとその対策を考えてみる（30分程度）。				
15	総括・ふりかえり―観光現象のフィールドワーク					前回までの授業内容を復習し、重要な観点をあらかじめまとめておくこと（30分程度）。				
教科書	特になし									
参考文献	「フィールドワークへの挑戦 実践人類学入門」菅原和孝編，世界思想社 「観光人類学のフィールドワーク ツーリズム現場の質的調査入門」市野澤潤平ほか2名編，ミネルヴァ書房 「フィールドワーカー―現代世界をフィールドワーク（京都文教大学文化人類学ブックレット）」佐藤知久，風響社									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。配信期間や課題内容の指示等も含め各自UNIPAを随時確認し、授業に臨むこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-34				
		●	●							
科目名	海外研修				単位認定者	吉野 千乃 佐藤 美 輪 鎌田 貢治		評価の方法	授業内課題	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度 (事前,事後)	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		報告書, 発表会	20 %
						授業回数	集中			
授業の概要	海外での実地の研修,あるいは遠隔方式による研修を通して様々なシーンにおける外国語の重要性を実感し,今後の外国語学習のモチベーションとするとともに,海外の多様な文化に触れ,文化間のコミュニケーションについて理解を深める。さらに「観光」と「外国語」という親和性の高い要素を総合して自己のスキルアップにつながる基本的な知見を獲得する。									
学修者への期待等	①海外研修の履修方法は通常の科目とは違うので注意すること。 ②渡航の準備は各自で責任を持って進めること。 ③事前学修・事後学修も研修の要件となることを理解し,欠席をしないこと。 ④短い研修期間を有意義に過ごすため,日本での準備をしっかりと行うこと。 ⑤現地での学修・生活の記録をつけ,実りある研修生活を送ることを期待する。									
授業計画										
1. 研修先・研修期間 4月ガイダンス時(予定)に説明される。										
2. 授業計画 現地での外国後学修と観光事情についての学修を学びの中心とする。 (1) 事前学修 (学内) 第1回 海外研修の目的 第2回 海外研修のための具体的な準備 第3回 海外研修の自己目標設定とグループ内発表 (2) 海外研修 (現地にて) 現地で英語を学修する。 現地の観光事情について,空港や宿泊施設等の視察内容をまとめ,学びを深める。 (ホームステイの場合)ホストファミリーと交流し,異文化理解やコミュニケーション力の向上に努める。 (3) 事後学修 (学内) 第4回 自己目標に対する研修の振り返り 報告書作成について 第5回 海外研修報告会										
3. 目標 ①外国での生活と学修により,自身の外国語コミュニケーション力を体験的に理解し,今後の学修に活かす。 ②海外の人々との交流により,異文化コミュニケーションの楽しさを知る。 ③外国での観光視察により,「観光」への知見を広め,グローバル時代の観光について考察する。										
【注意事項】 ① 学内実施の「事前学修」,「事後学修」の日程は,学内の掲示板で連絡する。 ② 現地での研修期間中に個人的な事由により現地授業や視察に出席できなかった場合,原則として単位認定を行わない。 ③ 渡航前に現地研修が何らかの事情により中止に至った場合,事前学修が行われていても,単位認定を行わない。										
教科書	適宜,レジュメを配布する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)